資料３-２

令和６年１月１０日（水）

午王山遺跡（第１７次）発掘調査現場公開

１遺跡名：国指定史跡　午王山遺跡

２指定年月日：令和２年３月１０日（追加指定 R3/3/26・R4/11/10）

３調査主体：和光市教育委員会

４調査目的：保存目的調査（トレンチ掘削による部分的調査）

・午王山遺跡の地形や遺構の分布状況及び保存状態を確認し、今後の保存及び史跡整備に活用するための基礎的情報を得ることを目的とする

・多重環濠のＡ溝とＢ溝の延長方向の確認、北側の崖下へ延伸するのか、北側斜面に沿って巡るのかの確認

５調査箇所：午王山遺跡　和光市新倉３丁目 2829-1、2833-1、2832-5 他

６面　　積：調査対象面積 4772.13 ㎡・調査申請トレンチ面積約 104 ㎡

７確認遺構：第１トレンチにて、弥生時代後期の内環濠Ａ溝を確認、また、Ａ溝の外周を巡るＢ溝らしき痕跡を確認した。

８検出遺物：弥生時代後期の壺形土器が検出された。

◎午王山遺跡の特徴

・荒川右岸の武蔵野台地上であるが、荒川（旧入間川）及び小河川の浸食により台地から切り離された、独立丘上の遺跡である。

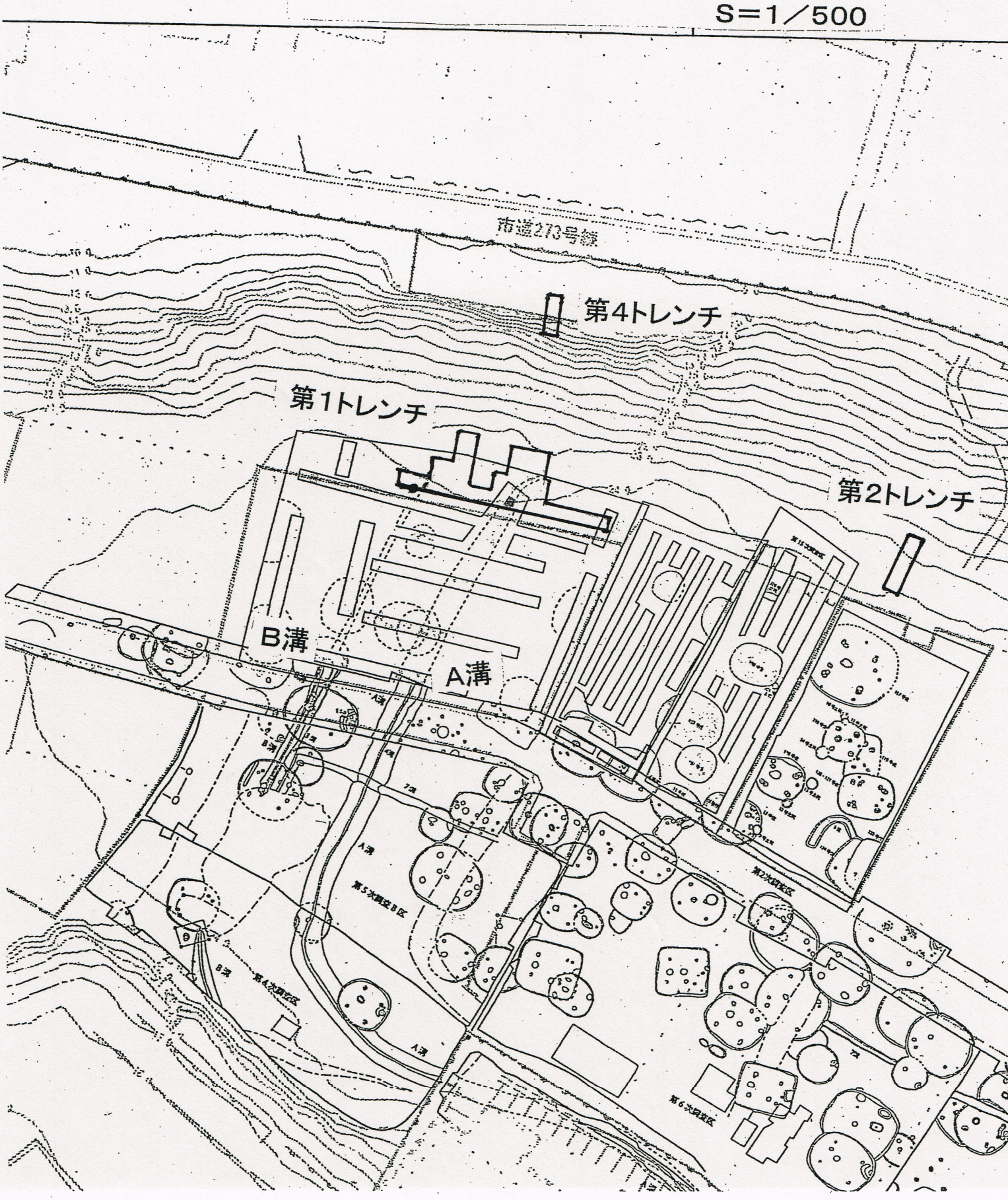
・独立丘のため、弥生時代の集落（住居跡群）の範囲、集落規模が理解できる。弥生時代の環濠集落が一目で理解できる。関東では類例の少ない多重環濠である。

・弥生時代後期前葉の北関東系である岩鼻式土器と東京湾沿岸系の久が原式土器が共伴して出土するほか、後期中葉では、東海系の下戸塚式土器が出土し、遠隔地との土器文化の交流が確認できる遺跡である。

・遠隔地との交流が、土器以外でも住居跡の形態や炉跡の形状から理解できる。

午王山遺跡　第１７次調査　概略図

S＝1／500



第１７次第１トレンチ　A溝

第１７次第１トレンチA溝